

日本語教育人材の養成研修実態調査 調査票(案)

1. 機関・団体名	(フリガナ)
2. 養成・研修課程・コース・講座名	※1つの課程・コース・講座につき調査票1枚作成してください。
3. 単位時間数	時間 または 単位（1単位は〇分）
4. 研修対象・受講資格	
5. 受講方法	☐ 通学 ☐ 通信 ☐ 合宿 ☐ （ ）
6. 研修実施時期及び期間	年〇回, 〇月開講, 3か月～2年
7. 研修実施時間数	時間
8. 受講料	☐ 無料 ☐ 有料（ ）円
9. 育成しようとしている人物像	
10. 修了要件	
11. 評価及び認定の方法	☐ 出席（ ）割以上） ☐ 試験・テスト ☐ レポート ☐ その他（ ）
12. 受講修了者の進路	
13. 養成・研修の科目一覧	科目(指導項目)一覧を記載してください。その際、次ページの平成12年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する(もしくは内容的に近い)か、番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。 例) 【理論編】ファシリテーション(★) 【実践編】フィールドワーク実習(⑩)

14. 養成・研修の内容		平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施している内容の○にチェックしてください。それ以外に実施しているものは【 】に記載してください。		
領域	区分	区分(①～⑯)	内容	
社会・文化・地域に関わる領域	社会・文化・地域	①世界と日本	○歴史, ○文化, ○文明, ○社会, ○教育, ○哲学, ○国際関係, ○日本事情, ○日本文学 ○その他【 】	
		②異文化接触	○国際協力, ○文化交流, ○留学生政策, ○移民・難民政策, ○研修生受入政策, ○外国人児童生徒, ○帰国児童生徒, ○地域協力, ○精神衛生 ○その他【 】	
		③日本語教育の歴史と現状	○日本語教育史, ○言語政策, ○教員養成, ○学習者の多様化, ○教育哲学, ○学習者の推移, ○日本語試験, ○各国語試験, ○世界各地域の日本語教育事情, ○日本各地域の日本語教育事情 ○その他【 】	
	言語と社会	④言語と社会の関係	○ことばと文化, ○社会言語学, ○社会文化能力, ○言語接触, ○言語管理, ○言語政策, ○言語社会学, 教育哲学, ○教育社会学, ○教育制度 ○その他【 】	
		⑤言語使用と社会	○言語変種, ○ジェンダー差・世代差, ○地域言語, ○待遇・ポライネス, ○言語・非言語行動, ○コミュニケーション・ストラテジー, ○地域生活関連情報 ○その他【 】	
		⑥異文化コミュニケーションと社会	○異文化需要・適応, ○言語・文化相対主義, ○自文化(自民族)中心主義, ○アイデンティティ, ○多文化主義, ○異文化間トランス, ○言語イデオロギー, ○言語政策 ○その他【 】	
	言語と心理	⑦言語理解の過程	○言語理解, ○談話理解, ○予測・推測能力, ○記憶, 視点, ○言語学習 ○その他【 】	
		⑧言語習得・発達	○幼児言語, ○習得過程(第一言語・第二言語), ○中間言語, ○言語喪失, ○バイリンガリズム, ○学習過程, ○学習者タイプ, ○学習ストラテジー ○その他【 】	
		⑨異文化理解と心理	○異文化間心理学, ○社会的スキル, ○集団主義, ○教育心理, ○日本語の学習・教育の情意的側面 ○その他【 】	
	言語と教育	⑩言語教育法・実習	○実践的知識, ○実践的能力, ○自己点検能力, ○カリキュラム, ○コースデザイン, ○教室活動, ○教授法, ○評価法, ○学習者情報, ○教育実習, ○教育環境, ○地域別・年代別日本語教育法, ○教育情報, ○ニーズ分析, ○誤用分析, ○教材分析・開発 ○その他【 】	
		⑪異文化間教育・コミュニケーション教育	○異文化間教育, ○多文化教育, ○国際・比較教育, ○国際理解教育, ○コミュニケーション教育, ○スピーチ・コミュニケーション, ○異文化コミュニケーション訓練, ○開発コミュニケーション, ○異文化マネジメント, ○異文化心理, ○教育心理, ○言語間対照, ○学習者の権利 ○その他【 】	
言				

	語 に 関 わ る 領 域		⑫言語教育と情報	○教材開発, ○教材選択, ○教育工学, ○システム工学, ○統計処理, ○メディアリテラシー, ○情報リテラシー, ○マルチメディア ○その他【 】
		言語	⑬言語の構造一般	○一般言語学, ○世界の諸言語, ○言語の種類, ○音声の種類, ○形態(語彙)の種類, ○統計の種類, ○意味論の種類, ○語用論の種類, ○音声と文法 ○その他【 】
			⑭日本語の構造	○日本語の系統, ○日本語の構造, ○音韻体系, ○形態・語彙体系, ○文法体系, ○意味体系, ○語用論的規範, ○表記, ○日本語史 ○その他【 】
			⑮言語研究	○理論言語学, ○応用言語学, ○情報学, ○社会言語学, ○心理言語学, ○認知言語学, ○言語地理学, ○対象言語学, ○計量言語学, ○歴史言語学, ○コミュニケーション学 ○その他【 】
			⑯コミュニケーション能力	○受容・理解能力, ○表出能力, ○言語運用能力, ○談話構成能力, ○議論能力, ○社会文化能力, ○対人関係能力, ○異文化調整能力 ○その他【 】
※3領域5区分以外については, こちらに記載してください。	その他	【 】	【 】	
15. 特徴的な内容	貴団体で養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して, 特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら, 記載をお願いします。			

16. 育成する日本語 教育人材に求められ る資質・能力	1) 知識 2) 技能 3) 態度 について, 下記内容について該当する場合は, □に☑を付けてください。これ以外については, ■に記載をお願いします。 1) 知識 □外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識 □対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識 □言語使用に関する知識 □言語発達に関する知識 □言語の習得過程に関する知識 □日本の教育制度に関する知識 □日本の歴史・文化事情に関する知識 □諸外国の教育制度に関する知識 □諸外国に歴史・文化事情に関する知識 ■一般的な求職活動に関わる基礎知識及び日本におけるビジネスマナーの理解 ■学習者の背景及び入国管理制度や在留資格に関する知識 ■ICTを駆使する知識 ■派遣国の教育制度・歴史・文化事情・社会事情一般に関する知識・情報 ■業務遂行や問題解決の方法に関する知識 ■ 2) 技能 □日本語を正確に理解し的確に運用できる能力 □言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力 □外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識, 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識, 言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力 □学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力 □教育課程の編成, 授業や教材等を分析する能力 □教育課程の編成, 授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力 ■日本語教育関連事業の企画・立案能力 ■課題達成型授業実践のための日本語教育的スキル ■日本語をコントロールして使うことができる ■中間管理職としてのリーダーシップ能力 ■マネジメント能力, 管理能力 ■緊急時における危機管理能力 ■関係する諸機関や関係者との調整・交渉能力 ■業務を円滑に行うための事務処理能力 ■ファシリテーション能力
------------------------------------	--

	3) 態度 ☐ 日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している ☐ 鋭い言語感覚を有している ☐ 国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚を有している ☐ 国際的な活動を行う教育者として、豊かな人間性を備えている ☐ 日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性を有している ☐ 日本語教育の専門家として、自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している ■ 柔軟性、明るさ、包容力、自他への配慮 ■ コミュニケーション能力 ■ 対人関係を築く力・他者と協働できる柔軟性・人とつながりネットワークを構築する力 ■ 問題解決にあたる積極性、創造性 ■ 前向きに感情を処理する態度 ■ 自身を客観的に振り返る態度 ■ 粘り強く練習につきあうことができる ■ 共感力 ■ 発達段階と現在の能力を冷静に見極める分析力 ■
17. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	
18. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	

19. 現行の養成・研修 プログラムにおける課題 (改善を検討したい点) と展望	
20. その他 (人材養成・研修に関する 御意見・御要望などありま したら、記載してください。)	